

第2回水窪小中学校コミュニティスクール運営合同協議会

R4.7.4

参加者：塩崎、平澤、牧内、三輪、千づる、西岡、金田、中村校長、新教頭
太田教頭、遠見石先生、片桐先生、丸山先生、教育総務課小川様

第1部 授業参観 13:40~14:20

第2部 協議会 14:30~16:00

1. 開会の言葉 牧内

2. あいさつ

塩崎会長：いまだコロナ禍の影響を受けながらも、先生方のご尽力により、スムーズに学校が運営されている。今後も、学校だけでなく、自治会をはじめ地域の行事等も、コロナ対策とのバランスを取りながらやっていかなければならない。健康に留意しながら頑張りましょう。

本日はグループ協議を予定しているので、活発な意見交換をお願いしたい。

中村校長：コロナ対策については、警戒レベルが1に引き下げられ、学校教育の現場でも、対策に留意しながらも緩和の傾向にある。7/1に5.6年生が門谷分校に行った。事前に地域サポーターが先生と下見に行き、安全対策をした。当日は卒業生である熊崎さんが当時の話をしてくれた。老朽化が激しく、内部に入れるのは今年が最後かもしれない。喪失していく歴史あるものを今後どのようにしていくのかもぜひ今日、話してみたい。

山下校長は、他の会議出席により欠席

教育委員会教育総務課 小川氏：学校運営協議会の自己評価の結果等の報告

3. 議長選出

牧内：前回同様塩崎会長をお願いしたいがいかがか？（異議なし）

4. 前回の議事録確認

会長：時間を取りますので、お手元の資料をご一読ください。

5. 報告・協議

(報告)

会長：事務局より、4~6月の活動報告をお願いしたい

新教頭：(小学校)添付資料に沿って活動を報告。皆様のご協力により、すべての活動が滞りなく実施できている。感謝したい。

会長：ご意見質問等ありますか？(発言無し)

太田教頭：(中学校)総合的な学習の時間を中心に、夏焼集落の訪問、着付け、地域福祉の現状、森林講座、絵本の読み聞かせ等、地域住民に手伝っていただいた。今後とも地域の皆様にご協力をいただきながら活動の幅を広げていきたい。

会長：ご意見・質問等ありますか？(発言無し)

(グループ協議)

会長：事務局からグループ分け、やり方などについて説明してほしい

新教頭：本日は3人の教諭が参加するので、司会は先生がやる。ざっくばらんに積極的な意見交換を
願いたい。最後に発表をしてもらい、とりまとめて学校のブログに投稿する。

A グループ(守屋ちづる(発表)、牧内、西岡、新教頭)

子どもの数が少なく、複式含め大変。先生と子供たちの距離が近いと感じる。
今年度赴任した新教頭から、「子どもに対してすぐに手を打つことができる。小規模校の良いところ。」との感想があった。しっかり「自分」持っていれば、どんな世界に出ても大丈夫。ゆるぎない
自己の確立は、学力をつけるより大切なことでは？不変のものはぐくみ教えることは小規模校は
やりやすいはず。特別なことを何か企画するのではなく、あるものを大人も子供も一緒に。大人が
楽しく充足していれば、それは子供たちに跳ね返ると思う。
協議会にでるメンバーが固定されてきている。保護者世代は、仕事があるのもわかるが、どんなこ
とをしているのか伝える機会が必要では？

B グループ(丸山先生(発表)、太田教頭、金田、平澤)

授業参観では、低学年の児童も自ら役割を決め、果たし、自らの意見を述べていた。
門谷分校では、減びゆく分校を見た子供たちが「遊具を移設したい」と訴えた。本当にやるなら協力
したいと地域住民は思っている。先生や子供たちの「やりたい・思い」に寄り添うことは地域住民に
はうれしい。特に中学は、進学準備もあることから地域住民には、何を手伝っていいかわから
ない。先生にはどンドンわがままを言ってほしい。
子どもたちに夢を持ってほしい。早くにあきめる子供が多いと感じる。学校側では、地域住民に手伝
ってもらっているおかげで運営方針や重点目標などに沿った活動ができていると感謝している。

C グループ(三輪(発表)、塩崎、遠見石先生、片桐先生)

授業参観では、やはり気になったのは複式。でも、デジタル化推進の中で、やりやすくなることもあ
るのでは？と期待。
知識も大切だが、人として必要なことは遅しさでは？そのために課題発見や解決能力を伸ばすことが
必要だと思う

6. 連絡事項

教育総務課：グループワークでは、教育の根幹ともいえる大事な話がなされていると感じた。学校の
運営にかかわる充実した協議に感謝する。児童数の減少は水窪に限らない問題である、今後
も引き続き協力をお願いしたい。

C D：コロナ前は、協議会のたびに実施されていた夜の「反省会」において、先生方と住民の間で
ざっくばらんに思いを話すことで、様々な情報や思いの共有ができていたが、「場」がなくな
ったことで、双方の距離感を感じることもある。まだまだ予断は許されないが、小規模でも構
わないので、こういったフォーマルな場ではなく、もっとカジュアルに意見交換ができる場を
設ける工夫を検討したい。

7. 閉会の言葉 牧内